

教育実践報告

管理栄養士養成課程における臨地実習オンライン報告会の 取り組み

石澤美代子・成瀬祐子・水野尚子・藤岡由美子

An Attempt of the Online Report Meeting after the On-Site Training Program in the
National Registered Dietitian Curriculum

ISHIZAWA Miyoko, NARUSE Yuko, MIZUNO Naoko
and FUJIOKA Yumiko

要 旨

管理栄養士養成課程において臨地実習は必須であり、本学には臨地実習Ⅰ～Ⅳの4種類がある。そのうち臨地実習Ⅱは病院へ赴き10日間の実習を行い、終了後はパワーポイントを用いて実習の概要や課題をまとめ、大学で「対面・ブース形式」により報告会を行っている。しかし、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大により対面が難しい状況となったので、2020年度は報告会をオンライン・ブース形式(オンライン報告会)にて行った。オンライン報告会は聴講者にはメリットが多く発表者側も有益な報告会になる可能性が示唆されたので、対面実施が難しいなかでもオンラインによる報告会は、代替方法として有用であると思われた。

キーワード

管理栄養士 臨地実習 報告会 オンライン

目 次

I. はじめに

II. 方法

III. 結果

IV. 考察

V. まとめ

謝辞

文献

I. はじめに

管理栄養士養成課程において臨地実習は必須であり¹⁾、松本大学には臨地実習Ⅰ～Ⅳの4種類がある。臨地実習Ⅰ(給食の運営)は栄養士養成課程に必須であり本学では卒業必修でもあるため全員が履修するが、臨地実習Ⅱ(給食経営管理論・臨床栄養学)と臨地実習Ⅲ(公衆栄養学)、臨地実習Ⅳ(臨床栄養学)は選択必修であり、管理栄養士養成課程を履修する学生が受講することとしている。

栄養士法²⁾には、管理栄養士とは、「傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導、個人の身体の状況、栄養状態等に応じた高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導並びに特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体の状況、栄養状態、利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等を行うことを業とする者」とあることから、管理栄養士必修科目である臨地実習Ⅱ～Ⅳは、より高度で専門的な学びを得るものでなければならない。

本学健康栄養学科の管理栄養士養成課程では2種類の組み合わせがあり、臨地実習Ⅱ+臨地実習Ⅲか、または臨地実習Ⅱ+臨地実習Ⅳのどちらかを学生が選択するが、どちらを選んでも臨地実習Ⅱは必ず履修する科目となっている。本学の臨地実習Ⅱは、3年生の2～3月に、契約した病院へ赴き90時間(約10日間)の実習を行い、終了後は、4年生になった6月に、新3年生(次年度履修予定学生)を聴講者として、1時限(コマ)の中で、大学のいくつかの教室に分散し、パワーポイントをノートパソコンのディスプレイで見せるという「対面・ブース形式」により報告会を行っている。1回の発表時間は20分で、聴講者を入れ替えて、期限内に3回行う方式である。なお、臨地実習Ⅰの報告会はグループ発表方式で、臨地実習Ⅱは対面・ブース形式、臨地実習Ⅲ・Ⅳは講演方式と、報告会の方法も学生の習熟度に添うよう各臨地実習で形式を定めて、例年実施している。

しかし、2020年1月からの新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)の感染拡大により、2020年度前期開講の授業がオンラインと決定³⁾され、対面授業ができない状況となり、更に対面でのブース形式では、複数名が1つのノートパソコンを囲むため

発表者と聴講者の距離が近く、飛沫感染と接触感染を主とするCOVID-19のリスクを高める可能性のある3密(密閉・密集・密接)の回避⁴⁾が困難と考えられたので、6月に開催を予定していた2020年度の臨地実習Ⅱ報告会は、開催時期をずらすよりも、対面をせずオンラインで行う「オンライン・ブース形式」で実施することと決定した。なお、本学が授業で採用したオンラインのシステムMicrosoft Teams(以下、Teams)を使用することとした。

II. 方法

1. 参加者

発表する4年生(実習終了学生：以下、発表者)62名と聴講する3年生他(次年度履修予定学生)82名、学科教員20名の計164名とした。

2. チャネルと時間帯の設定

従来のブースをTeamsのチャネルとし、実習病院が29病院であるため、その病院ごとにチャネルを29個設定した。各病院には1～4名の学生が実習に行っており、本来ならば学生ごとに62個のチャネルを開設することが望まれたが、数が多すぎ画面に表示しきれないことによるトラブルが想定されたので、チャネルは病院ごとの29個と設定した。

病院ごとに実習した学生数が違うため、最大4名の学生数に合わせて1コマ90分を4つに区切り、15分で1ブースとなるよう時間帯を設定し、発表は、発表者1名につき原則1回とした。

聴講者は、4つの報告を聞けることになるので、実習での学びの内容を知り自分が実習する上での意欲を向上させることを目的に、予めTeams内の【課題】にて聴講したい病院名を1つ選ばせ、その病院の発表を聴講できるように配置した。また、当該聴講者が実習時に自宅から通えると担当教員が判断した地域(地元等)の病院を2～3個配置したが、発表者の均等な発表機会設定のため、希望外の病院をいくつか配置した聴講者もいた。

聴講者からの希望が多かった病院で、実習した発表者が少ない場合には、当該発表者2名には2回発表してもらうこととしたため、ブースは計64個の設置

となった。そのブース計画(時間割一覧)の一部を表1に示した。表の左列(表側)にはチャンネル名、表頭には時間帯を表示し、時間帯別の発表者と聴講者を配置した。

3. 事前準備

1) 報告会のための事前指導

発表者に対し、2020年6月18日 Teams【ファイル】内にて資料を公開した。資料は以下の5種類である。

- ① 報告会開催における注意事項
- ② 個別リハーサル時間割
- ③ Teams 会議開始と画面共有の方法
- ④ 報告会時間割一覧(表1)
- ⑤ 自己評価表

上記資料を精読することを指示し、事前指導とした。

2) 担当教員との個別リハーサル

発表者は、4年次でオンライン履修している授業数が少ないことから Teams の習熟度が低いことが心配されたため、6月22日～24日の間の5分程度を指定し、担当教員の指導の下、Teams 上にてリハーサルを行った。62名のうち数名にトラブルがあり(Teams にアクセスできない、会議を開けない、ファイルの共有ができない、パワーポイントがスライドショーにならない等)、必要な場合には再度リハーサルを実施するなどし、問題の解決や不安の解消に努めた。

3) 追加指導

上記リハーサルからの問題点や解決策の共有のため、6月24日に Teams【投稿】に記事をアップロードし、精読するよう指示し追加の指導を行った。

4) その他

通信に過度の負荷をかけないため、発表者、聴講者ともにカメラ ON を必須としなかった。

4. 報告会当日

1) 日時

2020年6月29日(月)3限

「臨地実習事前事後指導」の授業時間内

2) 実施

前述表1の時間割の通り実施した。チャンネルの「会議の開始」は発表者が行い、予定されている聴講者の参加を確認してから、パワーポイントを用い発表を行った。その後質疑応答を行い、規定の時間になったら自分の発表を終え「会議を終了」して強制的に退出させ、聴講者が次のブースに遅延なく参加できるように配慮した。

学科教員には事前に周知し、参加は任意とした。

従来の対面式では、科目担当教員が各教室を巡回し時間通りの運営になるよう助言していたが、今回も時間の遅延が心配されたため、担当教員等5名が29病院を分担し、各自のパソコンから会議に参加し、時間通りの進行ができていないか、不参加者はいないか等、ブースの看視を行った。

表1 報告会時間割一覧(抜粋)

チャンネル名		①13:35～13:50	②13:55～14:10	③14:15～14:30	④14:35～14:50	
1	病院 A	発表者(4年生)	発表者 A	発表者 B	発表者 C	発表者 D
		聴講者(3年生他)	聴講者 a	聴講者 e	聴講者 i	聴講者 m
	聴講者 b		聴講者 f	聴講者 j	聴講者 n	
	聴講者 c		聴講者 g	聴講者 k	聴講者 o	
	聴講者 d		聴講者 h	聴講者 l	聴講者 p	
				聴講者 q		
2	病院 B	発表者(4年生)	発表者 E	発表者 F		
		聴講者(3年生他)	聴講者 e	聴講者 a		
	聴講者 f		聴講者 b			
	聴講者 m		聴講者 c			
	聴講者 n		聴講者 d			

聴講者1名が1ブースのみ参加できないというトラブルがあったほかは特に問題なく、実施できた。

なお、本報告会実施時の教員の看視場面を図1・2に、Teamsの画面を図3に示す。

5. アンケート

終了後、Teams【課題】にて、発表者、聴講者それぞれに実施アンケートを行った。質問項目はCを除き発表者と聴講者に共通で、以下の通りとした。



図1. 教員の看視場面①



図2. 教員の看視場面②

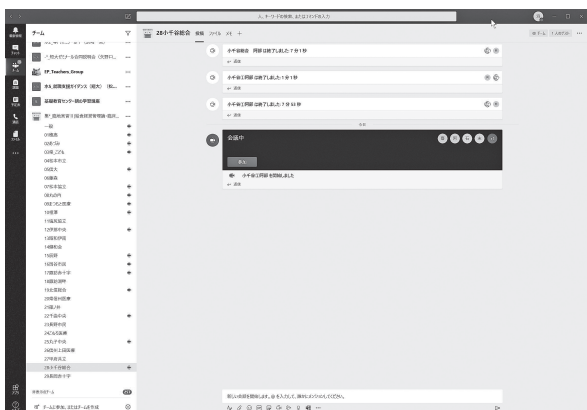


図3. 報告会実施時のTeams画面

提出方法は、Teamsの課題への入力にて行い、質問A、Bについては、入力された回答についてエクセル統計でカイ二乗検定を行った。

- A 1つの時間帯が15分という設定がどうだったか
- B 対面ではない、この方式での報告会はどうだったか
- C 発表のリハーサルを、事前に行ったか(教員との個別リハーサルでなく): 発表者のみ
- D 報告会がオンラインで良かったことは何か
- E 報告会がオンラインで困ったこと、良くなかったことは何か
- F 全体について意見など

Ⅲ. 結果

回答は、発表者62名中62名(回収率100.0%)、聴講者82名中76名(回収率92.7%)であった。アンケートの結果について、選択回答である質問A～Cは表2に、記述回答である質問D、Eは表3にまとめ、質問Fについては類似の回答はまとめ、列記した。

1. 質問A～Cについて

回答は選択式であり、その回答ごとの人数と比率について表2にまとめた。

質問Aの「1つの時間帯が15分であったことについて」は両者とも「長かった」はなく、「短かった」が、発表者41名(66.1%)、聴講者45名(59.2%)と多かったが、有意な差はみられなかった。

質問Bの「対面ではない、この方式での報告会はどうだったか」については、発表者は「悪かった(やりにくかった)」が39名(62.9%)と多く、聴講者は「良かった」が62名(81.6%)と多く、両者で逆の結果となり、有意($p < 0.001$)な差があった。

2. 質問D、Eについて

回答が記述式であるので、意味を精査し一文に複数の内容がある場合には分割し、項目別に集約した。発表者については意見の多い順に記載し、聴講者はそれと類似の内容を横に記載し比較した(表3)。

質問Dの「オンラインで良かったこと」では、発

表者では「緊張しなかった」、「他の報告が聞けた」が多く、聴講者では「パワーポイントが見やすかった」、「時間の節約になった」が多かった。質問Eの「オ

ンラインで困ったこと、良くなかったこと」は、発表者では「理解や反応の確認が難しかった」が圧倒的に多く、聴講者では「パワーポイントがうまく動

表2 アンケート結果(質問A～C)

質問	回答肢	発表者(4年生)n=62		聴講者(3年生他)n=76		p
		人数	(比率)	人数	(比率)	
A 1つの時間帯が15分という設定がどうだったか	ちょうど良かった	19	(30.7)	30	(39.5)	p=0.453
	短かった	41	(66.1)	45	(59.2)	
	その他	2	(3.2)	1	(1.3)	
B 対面ではない、この方式での報告会はどうだったか	よかった	15	(24.2)	62	(81.6)	p<0.001
	悪かった	39	(62.9)	7	(9.2)	
	その他	8	(12.9)	7	(9.2)	
C 発表のリハーサルを事前に行ったか	充分した	22	(35.5)	—	—	—
	少しした	39	(62.9)	—	—	
	あまりしなかった	1	(1.6)	—	—	
	全くしなかった	0	(0.0)	—	—	

*質問Aで「長かった」との回答はなかった。

表3 アンケート結果(質問D、E)

質問	発表者(4年生)n = 62		聴講者(3年生他)n = 76	
	意見(要約)	人数	意見(要約)	人数
D 報告会がオンラインで良かったこと	緊張しなかった	20	緊張しなかった	5
	他の報告が聞けた	16	パワーポイントが見やすかった	39
	時間の節約になった(学校やブース間の移動)	9	時間の節約になった(学校やブース間の移動)	16
	発表がうまくできた	8	交通費の節約になった	2
	準備が楽だった	5		
	集中できた	3	集中できた	11
	感染予防ができた	3		
	人数制限がない	3		
	参加が容易だった	1		
	服装が楽だった	1		
	意見が言いやすかった	1	意見が言いやすかった(質問がしやすかった)	9
			声聞きやすかった	5
			理解しやすかった	2
		メモを取りやすかった	2	
		多く聞けた	2	
		スムーズに進んだ	2	
E 報告会がオンラインで困ったこと、良くなかったこと	聴講者の理解や反応の確認が難しかった	47	聴講者の理解や反応が伝わらなかった	12
	Teamsの操作方法が難しかったり不安だった	10		
	質問が少なかった	5	質問がしにくかった	9
	通信トラブルの不安	4	通信トラブルがあった	9
			パワーポイントがうまく動いていなかった	13
			資料が手元になかった	2
			発表者の声が聞こえにくかった	3
			発表の仕方がうまくできていなかった	1
			時間が短い又は発表が早くてついていけなかった	8
			会議の移動に気をとられた	7
			次年度対面報告会になった時が不安	1

かなかった」、「聴講者の理解や反応が伝わらなかった」が多かった。

3. 質問Fについて

記述式にて「全体について意見」を求めた。発表者から33件、聴講者から46件の意見があった。類似の内容でまとめ、以下に記載する。

1)発表者(4年生)

【他の4年生の発表が聞けて良かった】

- ・実習先が異なれば実習内容も多種多様なので、仲間が10日間実習でやってきたことを聞くことができてよかった。今回のオンラインでの報告会だからこそ、多くの発表を聞く機会が4年生前ではできたと感じた。発表を聞くことで仲間の実習から得られることもあるため、良いと思った。(他3件)
- ・他の4年生の発表を聞くことができ、話し方や学んできたことを知ることができたので、オンライン発表の良さを実感することができた。

【オンラインでの伝え方について学べた】

- ・慣れていないことなので戸惑うことも多かったのですが、オンラインの中でどのように相手に上手く伝えられるのかと考えさせられる良い勉強になったと思います。(他1件)
- ・初めてのオンラインでしたが、3年生が質問してくれたことや、時間内に会議に参加してくれたこと、最後には「ありがとうございました」と3年生が言ってくれたことが、報告会の為に準備してよかったと思いました。
- ・スライドが多かったのが重要な部分をかいつまんで話せたか、冒頭スライドが止まってしまったのでうまく伝えられたか不安だが、自分の実習を思い出しながらでき良かった。問3のスライドショーが止まってしまったアクシデント以外はやりやすかった。
- ・オンラインで授業を聞くことには慣れましたが、発表するのは思っていた以上に難しく感じました。

【時間を長く】

- ・時間が少し短かったのもっと長くしたほうが良いと思いました。(他1件)

【対面式が良い】

- ・異例の事態で、オンラインという環境を設定して頂いたのですが、報告会は対面式で行う方がいいなと感じました。
- ・コロナウイルスの影響があり、対面で報告会が行えなかったことを残念に思います。出来れば3年生の顔を見て、きちんと話をしたかったです。
- ・オンラインではなく、日にちを設けて対面にて発表をした方がもっと伝わる情報もあったのではないかと思います。
- ・対面でもよかったと思う。
- ・実際、去年は3年生の立場になって参加したが、やはりオンラインじゃないほうが聞きたいことが気軽に聞けるのではと感じた。私も、事前に3年生のことを考え発表すべきだったと感じた。

【聴講者の反応が見たい】

- ・やはり対面でないのでせめて聴講者の反応が見やすいと良いと思った。

【事前の資料配布やパワーポイントの閲覧】

- ・資料を配布しないのであれば15分では足りないと感じたのでパワポを閲覧できる期間があった方が良いと思う。
- ・オンラインでも配布用資料が有った方が安心だと感じました。
- ・画面共有がうまくできなかつたので、予めスライドを配布しておけば聴講者にしてみればありがたかつたのかなと思います。
- ・内容が濃いのが、15分の短い時間での説明であるため、スライドの進みなど早くなってしまった。そのため、3年生には手元に資料があった方が分かりやすいと思った。

【その他】

- ・質問時間を含め15分だったので13分くらいで終わるようにしたが質問や感想がなく時間が余ってしまった。また、聞こえていますかなど聞いても反応がなかつたため声が聞こえているのか不安だった。
- ・お互いに学びを深めることができる貴重な機会だったと思います。
- ・Cを「その他」と回答した理由は、やりやすかつた点とやりにくかつた点の両方があつた為です。

【謝辞】

- ・先生方のサポートあつての報告会だったと思います。3年生に伝えたいことが伝えられました。

ありがとうございました。(他1件)

- ・私が体験した報告会とは異なる方法でしたが無事に開催できてよかったです。ありがとうございました。
- ・最後に先生から「みなさんお疲れ様でした」と言っていた時、とても達成感を感じました！

2)聴講者(3年生他)

【オンラインでの伝え方について学べた】

- ・お互い表情が見えなかったので少しやりづらかったです。けど、そんな中わかりやすく説明してくれた先輩はすごいと思いました。

【発表の仕方】

- ・小さな字で多くの情報が書いてあるスライドを淡々と表示する(すぐに切り替えてしまう)部分、全く読めませんでした。見せる意味はあったのかな?と思いました。伝えたい必要な事のみスライド・口頭で紹介するほうが良いと思いました。質問の時間をもう少し増やしていただきたいです。お聞きしたいことが沢山あり、5分では3つくらいしか聞けませんでした。10分くらい頂けるとありがたいです。
- ・発表が始まる前に全体に向けて、どんな項目について述べるかを提示していただけたらもっと分かりやすいと思いました。
- ・スピードが速いのとわからない言葉が多く出てきて、内容が難しいと感じました。半年後に自分が経験することへの不安がでてきました。

【臨地実習への理解】

- ・多くの先輩方の実習報告を聞くことで、病院実習のイメージを持つことができました。
- ・臨地実習Ⅱの必須課題のことやどのように報告会を行うのか少しわかったので良かった。自分が今何をしておいた方が良いのか理解できた。
- ・後輩へのアドバイスというスライドがあったため、それをしっかりと覚えておこうと思った。
- ・先輩方のパワーポイントが、大体の構造は皆さん同じで、色々な人の話を聞く中で、自分で整理しながら聞け、パワーポイントも分かりやすくよかったです。
- ・4年生が臨地実習で体験したことを聞くことができ、これから行う実習の想像ができたため良かったです。

- ・臨地実習Ⅰのための勉強にもなったので、実習先に行ってもあまり困ることがないようにしていきたいと思います。
- ・突然「～はこんな感じでした」と聞きなれない単語から始まって焦ったがこんな感じでやるのかと知れてよかったです。
- ・今までの授業で習ったことが実習に直結すると思ったのでしっかりと復習等をおきたいです。
- ・先輩方の発表を聞き、実際に自分も同じ実習へ行くと考えると、自分にできるのか不安になりました。ですが、貴重なお話を聞くことができ、とても参考になりました。
- ・まだ臨地実習Ⅰも行っていないので実習自体どのようなものか想像がつかないです。習っていない言葉がたくさん出てきたのでついて行くのが大変でした。しかし、それが大切なことだと言うことはどの発表を聞いても感じる事が出来ました。
- ・報告会を聞くことで、臨地実習Ⅱではどのようなことを学ぶのか、報告会のパワーポイントのスライドはどのような形で作成するのかとても参考になりました。
- ・病院実習についてのイメージや注意点(対策しておくべきこと)が良く分かりました。
- ・病院によって様々な特徴があり、勉強になった。
- ・詳細に課された課題のことや一日のスケジュールなどが知れて臨地実習のイメージができた。

【時間を長く】

- ・時間のわりに内容が濃いのですごく話すはやさ早くて聞きとれなかったり見逃したりする事があったのもっと時間があるといいと思う。
- ・今回の報告会で全体的に時間が短かったため、スライドの時間も短くメモを取る時間がなく少ししかメモが取れず質問の時間しか落ちていて聞ける時間がなかったのもう少しだけ時間が長いとありがたかったです。(他1件)
- ・もう10分くらい長いと1枚1枚のスライドをゆっくりと見られていいと思いました。先輩方の貴重なお話を聞いて良かったです。
- ・情報量が多い割には時間が短く、こちら側に伝わらないこともありました。
- ・しゃべる速さやスライドを変えるタイミングが速く、また、話す内容も難しかったので聞き取

るのが精一杯でメモをする余裕がありませんでした。

- ・簡単な部分はスライドを読む間もなく進んでいたため、20分もあれば丁度良かったと思います。
- ・人によって飛ばす部分や丁寧に説明して下さるところが違うので戸惑いました。「画面の通りです」で飛ばすところは統一したほうが聞きやすいと思います。もしくは時間を延ばして説明していただけるとよりよくなると思います。
- ・時間制限があったためにしょうがないのかもしれないませんがパワーポイントをゆっくり見られなかった。
- ・一人当たりの発表時間がもっと長ければ、より理解が深まったと思うので、発表時間を20分以上にした方が良かったと思います。
- ・時間が短く、説明が省略されていたのが少し残念でした。
- ・15分間で伝えて頂いた量が多く、重要なことがゆっくり聞けなかったことが残念でした。

【対面式が良い】

- ・対面の方が質問等しやすいのかなと思いました。

【事前の資料配布やパワーポイントの閲覧】

- ・先輩の作ったパワーポイントはすごく見やすく詳しく書いてあるのに時間の都合でかなり飛ばしていたので、説明がないのは仕方がないがゆっくりパワーポイントを見たかった。
- ・あまり重要でないところの、飛ばしてしまっていたパワーポイントを見たいと思った。
- ・限られた時間の中で発表を済ませないといけないので、早口なのとスライドをめくる速度が速くなってしまふのは仕方がないことだと理解しております。しかし、聞いたことがないようなことばかりでメモを必死に取ろうとしても間に合わず、頭で整理する時間も間に合わなかったため、とても厳しい一コマでした。実習に行くにあたり、そのような能力は必要であると認識しておりますが、本日の報告会でレベルの違いを痛感いたしました。レポートを書くことと今後の実習の気持ちづくりのためにも、差し支えなければ先輩方のパワーポイントをアップしていただくと幸いです。

【その他】

- ・報告会はオンラインでいいが、アクシデントに

対しての対応ができていなかったので対応策を発表者に伝えた方が良かったと感じました。

- ・総括の部分をもう少し詳しくお聞きしたかったです。
- ・来年は自分が発表の立場になるのでうまく発表できるか不安になりました。
- ・3回目の聴講に会議の参加ボタンがなく入れませんでした。1回目、2回目、4回目は入れました。
- ・もう少し丁寧に説明していただきたかったところがあった。
- ・先輩方から直接お話を聞ける、とても貴重な体験ができてよかったと思います。
- ・質問なのですが、来年も報告会はオンラインでやるのでしょうか。
- ・先輩方がわかりやすく発表して下さり、質問にも答えて下さりとても分かりやすかったです。
- ・先輩方の経験を拝聴でき、とても勉強になりました。ありがとうございました。(他1件)

IV. 考察

1. 時間について

アンケート質問Aより、1つの時間帯が15分という設定が「長かった」という学生は、発表者(4年生)、聴講者(3年生他)ともに0名であった。両者とも、「短かった」との回答が多く、発表者で41名(66.1%)、聴講者で45名(59.2%)と顕著であった。質問Eの回答を見ると、発表者側は報告したい内容がたくさんあったと思われるが、Teamsの操作方法に躓いたり、聴講者の反応がわかりにくかったりして戸惑いながらの報告であったと考えられ、また聴講者からは、パワーポイントの動作不良で時間を浪費したり、初めて聞く単語に戸惑ったり、説明が早かったり等で、十分な理解が得られないまま終わってしまい、時間が短かったと感じたと考えられる。

2. 発表者(4年生)側から

アンケート質問Bより、この方式での報告会の評価は、発表者の「よかった」(15名)が「悪かった」(39名)に比べ有意($p < 0.001$)に低かった。その理由は、質問Fの自由記述から、対面できちんと伝えたかつ

た、反応がわからなかった、パワーポイントの投影だけでなく資料を配布したら良かった等があり、これらは、カメラ機能をONにする、資料を配布することで改善できると思われた。反面、質問Dの回答より、従来の対面式ではノートパソコン画面の見やすさを優先して聴講人数を2~3名とし、同じ発表者が2~3回発表していたのを、オンラインでは4~6名で1回のみとしたため、空いた時間帯は他の発表者の発表を聞いたことが良かった(16名)、対面ではないので緊張しなくて良かった(20名)等のメリットも多くあり、有用性も感じられた。

3. 聴講者(3年生他)側から

同じくアンケート質問Bより、この方式での報告会の評価は、聴講者側では、「良かった」が62名と多く、「悪かった」7名に比べ有意($p<0.001$)に高かった。質問D、Fの回答から、パワーポイントの見やすさが顕著に多く(39名)、手元でクリアな資料が見られるというオンラインの特長がまさしく体现された。ただし、時間が短く説明が不足と感じており内容を理解しきれていないことが推測されるため、改善が必要と考えられた。

上記1~3を集約すると、改善できる点がいくつか考えられる。

1つめはTeamsの機能を活用することである。まず、カメラ機能をONにすることである。これにより「理解や反応の確認が難しい」が緩和される可能性が高い。パワーポイントの動作不良は聴講者の表情からも読み取れる可能性があり、カメラONの効果は大きいと考えられる。またTeamsにある「手を挙げる」機能を併用するほか、豊島ら⁵⁾によれば、「遠隔報告会の質疑応答ではチャットで書き込む形式だと多く寄せられる」ため、報告会後の質問や回答でも良いこととすれば、今後活用する価値があると思われる。

2つめは資料を事前に配布(アップロード)することである。手元に予め資料があれば、聴講者は事前学習により、質問したい項目がリストアップでき、パワーポイントの動作不良があっても、資料をもとに口頭説明のみで進行できることも考えられ、時間を効率よく使える可能性があり、悪かった点として

多く挙げられた「時間の短さ」を補うことができると思われる。

3つめは、チャンネル数を増やし、1コマ内の発表は3回とすることである。今回は実習病院数とチャンネル数を同数としたため1病院最大4名の実習生数に合わせ1コマを4分割し、結果として1つの時間帯が15分となってしまったが、A病院①、A病院②等チャンネルを増設し、1発表当たりの時間をもう少し長く設定できれば、発表者は更に丁寧に発表でき、聴講者は更に学習や理解が深まると考えられる。

V. まとめ

COVID-19の感染拡大により、2020年度の臨地実習Ⅱ報告会は、対面をせずオンラインで行う「オンライン・ブース形式」で実施した。聴講者の評価が良かったことや、発表者が空き時間に他の発表を聞きに行けたことを良かったと感じた点などから、オンライン報告会は聴講者にはメリットが多かった。しかし、発表者側も上記を改善する等で有益な報告会になる可能性が示唆されたので、今後、COVID-19の感染がどのように拡大していくか不明だが、対面実施が難しいなかでもオンラインによる報告会は、代替方法として有用であると思われた。今後、同様の報告会を開催の折には、本調査をもとに改善に努め、よりよい実施を目指していきたい。

謝辞

オンライン報告会の運営等にあたりご助言いただきました本学情報センター、短期大学部経営情報学科浜崎央教授、健康科学研究科弘田量二教授、教育学部マーメット・ショーン・コリン准教授、当学科長谷川尋之専任講師、裕野佐也香助手に深く感謝を申し上げます。

文献

- 1) 厚生労働省, 栄養士法施行規則(昭和23年1月16日), 第十一条(平成7年4月1日)
https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=78319000&dataType=0&pageNo=1(閲覧日2020.9.7).
- 2) 厚生労働省, 栄養士法(昭和22年12月29日), 第一条(昭和62年4月1日)
https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=78317000&dataType=0&pageNo=1(閲覧日2020.9.7).
- 3) 松本大学ホームページ, 全都道府県緊急事態宣言に伴う対応について, (2020.4.17)
<https://www.matsumoto-u.ac.jp/news2020/04/29003.php>(閲覧日2020.9.7).
- 4) 厚生労働省, 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針, (2020.3.28)
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000633503.pdf>(閲覧日2020.9.7).
- 5) 豊島かおる, 宍戸史, 目時弘仁, 河合佳子, 川本俊輔, 亀岡淳一, 佐々木貴志, 岡本功喜, 有川智博, 中村豊, 賀来満夫, 大野勲, 「パンデミック下の“新しい教育様式”」『医学教育』51巻3号, pp222-223(2020).